

●「ふるさと京田辺を学ぶ講座」 7月26日(土)10時から

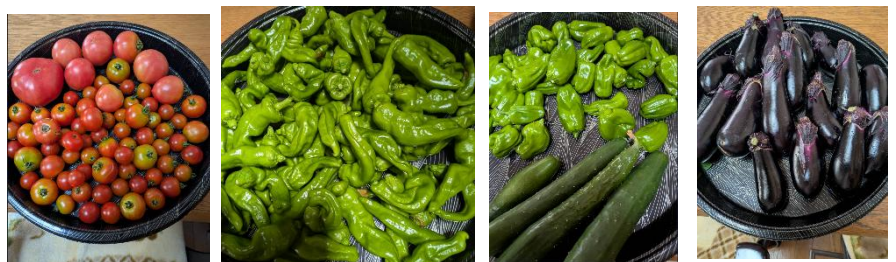
京田辺市文化協会からの講師要請に応じて、里山の会の活動で得られた自然について話をさせて頂きます。一般的に言って京田辺市は全国でも珍しいとされている天井川がある事、そして高級玉露の生産地でしょう。その他有名なのは一休和尚のお墓のある一休寺などが有名です。現代では文化学園都市として同志社大学がよくとりあげられています。わたしは里山の会での活動を始める前にはこの程度のものだとの認識でした。しかし木津川の生育植物や普賢寺地域の植物と生きものを知る機会にめぐまれて、近隣では見られない貴重な生物が豊富に生き残っている姿から京田辺市の環境に誇りを持てるようになりました。その一端を子どもたちに伝えられたらと思い準備を進めています。また楽しい夏休みなのですが、何か工作のお手伝いが出来ればと里山の会の得意の一つ京田辺市の木に指定されている「ナンキンハゼ」の実を使って松ぼっくりを美しく飾る工作を中心にして、真竹で竹エンピツづくりも準備しています。楽しいひと時を過ごしましょう。いい思い出になればうれしいです。

●日本で一番古いとされている書物が「古事記」とされていますが、蚕についての記述がされていて、その場所が普賢寺ではないとも理解されています。継体天皇が筒木の宮についても述べられています。当時養蚕されていたとされる桑の木を、植物学者の村田源先生が木津川で発見されて大きな話題になりました。先日里山の会の代表代理の光田重幸先生が普賢寺川下流で唐桑（カラグワ）と思われるものを見つけていただきました。これは江戸時代に幕府によってこの桑は伐採されしまったものですが、木津川や普賢寺川に生育していたのです。明治以後養蚕に使われている現在の桑は葉の厚さが厚く魯桑（ロソウ）といわれるものです。副理事長の森島さんは、このカラグワを参加者の皆さんに触ってもらい実感していただきたいと考え、用意してくれる段取りをされています。ご期待ください。5mほどの高さになっているとのこと。

●里山農園野菜販売所 「うれしい報告」

太田さん販売所報告 初めて完売しました！ 19袋出したのですが、お金は2000円入っていました！ この間の不足分を入れてくれたのかなあ！」と伊藤様から連絡がありました。

協力金が不足することはこれまで多くの無人販売では仕方のないことだと諦めていました。今朝の事務局会議（7月23日）では大多数の人びとは正しく払ってくださっているので、一部の心無い行為を全体に広げる扱いはいかがといった意見もありました。



こんな新鮮でおいしそうで減農薬の野菜を並べました

●綾史郎先生が竹蛇籠の編み方を学びにお越しになりました。 7月23日(水)

大阪の芥川では豊かな川づくりを目指して竹蛇籠を編み上げようとお越しになりました。先生が持ってこられた紙テープで作った竹蛇籠の模型作りを2時間かけて先生と太田さんが一緒に編み上げていただきました。現場での竹を使った製作でなく、紙による机上でのなれない取組に頑張ってくださいました。竹蛇籠の取組で一番苦労したのは竹の切り出しと製作場所への運搬、そして7mの竹割の素材づくりでしたとお伝えしました。そのうえで骨組みを素人集団、里山の会のメ

ンバーが失敗を幾度も重ねてみんなで学びあいましたとの苦労話をしました。そしてできるなら9月27・28日京都府立植物園での「生き物フェスタ」で行う竹蛇籠製作講習会へのご参加をすすめました。

●梅雨が終わり夏休みが始まりました。生き物たちが次の世代に引き継ぐ取り組みが一斉に始まりました。昆虫好きの若者たちも活動が広がりました。里山の会で昨年からは昆虫観察を進めてきた2人の中学生は7月22日(火)の7時から里山農園で観察を行ったとの報告がありました。自転車で新田辺駅付近からは40分ほどかかるとのことでした。この朝はミヤマクワガタやノコギリクワガタが見つかり、ゴマダラチョウが卵を産み付ける現場に出会ったとの事でした。前日の21日には大変元気なタマムシを柄の長い補虫網で捕らえられたと報告がありました。7月26日の文化協会の発表会まで元気に生きていたら参加者に見てもらいたいといっていました。

中学生の観察行動報告②

今週の日曜日、僕は里山農園でチョウを観察していたのですが、16号地に、生えているねむの木に、カナブンがついているのを見つけて、もしや樹液が出ているのでは？と思い、上を見上げると、なんと樹液が出ていました。



ねむの木から樹液が、出ている様子



数日観察 樹液の出ているねむの木についていた虫は、(樹液に来ていた虫)は、カナブン、キタテハ(違ったかもしれませんが)だけでした。

カブトムシ、クワガタムシは、来ていませんでしたが、今週の観察会で見ていただくと、カブトムシ、クワガタムシもいるかもしれません。皆さんもぜひねむの木を見てみて下さい。

ナガサキアゲハの飛翔を確認できた



2025年7月15日里山農園で金田さんとバタフライトップの確認をしていたときに、ナガサキアゲハの雌が山の方から飛んでくるのが見えました。残念ながら採り逃がしました。ナガサキアゲハは、元々南方系の蝶でモンキアゲハと並び日本で最も大きくなる蝶のひとつで、里山農園であえてとても嬉しかったです。